

平成19年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(市町等事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	採択年 目標年	事業進捗状況		事業を巡る社会経済状況等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
							総事業費	進捗率					
							うち工事費	進捗率					
							うち用地費	進捗率					
海岸事業	112	四日市港海岸	四日市市		<p>【全体事業概要】</p> <p>〔富洲原港地区〕 護岸補強:1,266m 排水機場:1基</p> <p>〔2号地地区〕 護岸補強:1,256m 胸壁補強:860m</p> <p>〔富田港地区〕 護岸補強:358m 排水機場改良:1基 樋門改良:1基</p> <p>〔石原地区〕 護岸補強:579m</p> <p>〔運河地区〕 護岸補強:1,428m 水門改良:1基</p> <p>【目的】</p> <p>四日市港における護岸の多くは、昭和34年の伊勢湾台風による災害後に築造され、築後50年近くが経過しており、近い将来発生が予想される大規模地震に対する耐震性を確保するため、一刻も早い耐震対策が望まれています。</p> <p>当該高潮事業は、耐震対策を実施し既設護岸を補強することで、地震時の護岸崩壊に伴う浸水被害を防止し、背後の生命と財産を守る事業です。</p>	S61	13,406	61.3%	<p>【社会的状況の変化】</p> <p>防護区域は、依然として人家や事業所などが密集しており、防護の必要性に変化はありません。</p> <p>また、平成7年の兵庫県南部地震、平成16年の新潟県中越地震、更に今年の能登半島地震や三重県中部地震など大規模な地震が頻発している昨今、東海・東南海・南海地震による被害が懸念される当地域においては、護岸補強工事の必要性及びその機運は一層高まっています。</p>	<p>【費用対効果分析】</p> <p>〔富洲原港地区〕 B/C = 11.0</p> <p>〔2号地地区〕B/C = 3.4</p> <p>〔富田港地区〕B/C = 6.4</p> <p>〔石原地区〕 B/C = 4.9</p> <p>【コスト縮減】</p> <p>設計時において出来るだけ既存施設を有効に活用することや、各施設を細分化しより経済的な断面を採用するなど、設計時において可能な限りコストの縮減に取り組んでいます。</p> <p>【代替案】</p> <p>海岸護岸は資産防護として極めて重要な役割を果たしており、護岸補強工法の必要性に変わりありません。</p> <p>また、代替案として、新たな護岸を既設前面に設ける工法などが考えられますが、コストの面からしても現工法が妥当であると判断しています。</p>	<p>【今後の見通し】</p> <p>近年の厳しい財政状況の中、背後地に人家が密集する富田港及び富洲原港地区は、優先地区としそれぞれの目標である平成25年度及び平成26年度に事業が完了するよう整備を進めていきます。次いで2号地地区、石原地区の順に完成を目指し、最終的に平成30年度の事業完成を目指します。</p>	<p>審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。なお、県民に対する説明責任を果たすため、分かりやすい説明に努められたい。</p>	
							13,406	61.3%					<p>【次年度以降の内容】</p> <p>〔富洲原港地区〕 護岸補強:432m</p> <p>〔2号地地区〕 護岸補強:367m 胸壁補強:860m</p> <p>〔富田港地区〕 護岸補強:258m</p> <p>〔石原地区〕 護岸補強:412m</p> <p>〔運河地区〕 -</p>
						H30	-	-					